

地域活動を応援する

## 地域のわ通信

R5年5月  
NO.84過去の「地域のわ通信」は  
こちらをご覧ください。高齡男性に人気の実践型サロン  
「羽沢キャベツの会」

相鉄・東急直通線が2023年3月に開通した羽沢横浜国大駅から5分ほど歩いた農地に、野菜づくりを楽しむシニア世代の男性たちの姿がありました。そこで活動しているのは「羽沢キャベツの会（以下「キャベツの会）」」。開催から5年が経ち、高齡男性を中心とした実践型のサロンとして、着実に地域に根付いています。



▲「キャベツの会」の活動様子（4月23日）

## ■ 孤立しがちな高齡男性のサロンとしてスタート！

農地や樹林地が多く残る羽沢南町内会は、地域活動が盛んな自治会です。地域のみなさんが交流するサロンの活動も活発ですが、サロンには女性が多く、男性がなかなか入りづらいことが課題でした。そこで、高齡男性の孤立を防ぎ、男性が参加しやすいサロンができないかと考えた取組が、この「キャベツの会」です。

畑では毎月2回（第2・4日曜日）午前中の2時間程度、約16名の会員が作業に汗を流します。

野菜づくりに関心のある人なら誰でも参加できますが、参加者のほとんどは男性。野菜づくりと高齡男性の相性は良さそうです。

和田町内会長も「ここは参加者が手足を動かす実践型のサロンです。野菜を育て収穫する活動はみなさんが理屈抜きで楽しめる場になっています」と笑顔で話していました。



畑作業を通じて高齢男性を中心とした交流が生まれています。



▲和田会長



今日の収穫!!  
スナップエンドウ  
とはちみつ。



写真① 収穫した野菜を手取る会員のみなさん  
写真② 今日の畑作業の説明をする大橋代表（中央）  
写真③ 畑の一部に養蜂の場を借りている人も  
はちみつは「よこはま百花蜜」

## ■ 身近な畑で人と人がつながるのも魅力

平成30年9月にスタートした「キャベツの会」は、今年で5年目を迎えます。「自治会エリアにあった休耕地の畑を無償でお借りしています。畑の持ち主から、自治会が使うなら安心して貸せると言っていただき始まりました。会員の自宅から近い畑だから続けられているのかな」と、和田町内会長。また、参加者からは、「同じ町内で顔は知っていても話したことがない人がいます。畑に来るようになり、知り合いが増えたのがうれしい」という声もありました。

収穫の喜びを一緒に楽しみ、身近な畑で知り合いも増える「キャベツの会」は、これからも高齢男性を中心とした地域の実践型サロンとして賑わいそうです。

Chiikiryoku Up!

## ■ 一番の楽しみは、なんとと言っても収穫！

会の代表を務めるのは、町内会員の大橋さん。奥さまの実家が大规模農家だそうで、大橋さんも現役時代から週末に畑仕事の手伝いをしながら野菜づくりを覚えたと言います。その経験を買われ、「キャベツの会」の代表に抜擢されました。



みなさんが収穫を喜ぶ姿がうれしいです

畑作業は、まず大橋さんが作った「作業シート」で流れを説明し、作業を分担することから始まります。

この日の作業は、枝豆・小松菜の種まき、ジャガイモの芽欠き・土寄せ、スナップエンドウの収穫でした。

参加者からは「とにかく収穫が一番うれしいですね。野菜を持ち帰ると妻が喜び、夫婦の仲も良くなります」「野菜づくりを通して初めて学ぶことがあります」などの声が聞かれました。

▲大橋代表

「羽沢キャベツの会」の活動概要	
場所	羽沢町658付近の畑（「羽沢横浜国大」駅徒歩5分）
日時	毎月2回 日曜日の午前中（2時間程度）
内容	地域のみなさんと協力して野菜を育て、交流をはかる
年会費	3000円
問合せ	地域包括支援センター 若竹苑 電話：045-382-0024 Fax：045-373-7472